



Ⅸ 資料

1 平成29年度年度計画

I 大学の教育研究の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

(1) 教育の内容及び成果に関する目標を達成するための措置

ア 特色ある教育の実施

- ・ 平成28年度に導入した新カリキュラムを旧カリキュラムとともに着実に実行する。
※ 指標 共通教育科目の効果検証の実施
- ・ 平成28年度までの効果検証、授業実施状況から抽出した学部及び研究科ごとの課題を踏まえ、横断型連携教育を実施するとともに、公開発表会のアンケート等による効果検証を継続して行う。
- ・ 博士前期課程における研究科連携科目について、授業評価アンケート等を用いて検証を行う。
※ 指標 学部及び研究科における横断型連携教育の効果検証の実施
- ・ 博士後期課程について、設置認可申請に基づいた教育を引き続き展開する。
※ 指標 博士後期課程研究計画書の提出：各研究科1件以上
- ・ 博士前期課程を修了する学生に対するアンケートを実施し、博士前期課程教育の検証を引き続き行う。
- ・ 平成28年度からグローバルな人材育成教育に係る授業内容を含めることとした科目以外についても、異文化への理解と関心を高めるという本学のグローバル人材育成方針に基づき、授業内容について検討を行い、既存の科目の中から対象となる科目の拡充を目指す。
※ 指標 グローバルな人材育成教育に係る授業内容を含める科目数：6以上
(共通教育科目2、デザイン学部専門科目2、看護学部専門科目2)

イ 時代に即した教育課程の編成

- ・ 全学部共通のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）及びアドミッション・ポリシー（入学者受入方針）を踏まえて各学部の3ポリシーの見直しを検討する。
- ・ 各学部及び研究科のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて、学生の理解を深めるためガイダンスで説明するとともに、引き続きシラバス及び本学ウェブサイトで周知する。
- ・ 卒業時の教育評価アンケート等に基づき、学部生の卒業時の学習到達度の検証を継続して実施する。
※ 指標 学部教育への満足度（回答平均値の下限）：7.0（10段階評価）
- ・ 科目ナンバリング¹導入効果を検証する仕組みを検討する。

ウ 入学者選抜方法の検証と見直し

- ・ 各入学者選抜方法を検証するため、志願状況（小論文又は実技の科目選択状況を含む。）及び入学者アンケート結果について多角的な視点から分析を行うとともに、平成19～28年度入学者の入学後の成績等を基に、追跡調査を引き続き行う。また、3年次編入学生も対象として調査を行う。
※ 指標 入学者アンケートや入学後の成績追跡調査を活用して、入学者選抜方法の変更案を立案する。
- ・ 高校生、保護者等へ本学の活動内容を周知するため、オープンキャンパスの開催、進学相談会、出前授業等への参加により多様な機会を設けるとともに、高等学校の教員を対象とする大学説明会を継続して実施する。また、必要に応じて、各種広報活動の内容や参加について見直しの検討を行う。
※ 指標 オープンキャンパスの実施：2回

1 科目ナンバリング

授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組み



進学相談会及び出前授業への参加：40件

- ・ 本学に関心をもってもらうため、各学部において中学生を対象とした模擬授業や大学見学などの広報活動を継続して実施する。

※ 指標 受入れ学校数：延べ5校（両学部合計）

エ 教育方法の改善等

- ・ 平成25年度に導入した、1年次における半期ごとの登録単位の上限の適切性について、学生の履修状況及び単位修得状況を継続して調査する。

※ 指標 平成25年度以降入学生の履修単位数に対する取得単位数の割合：80%以上

- ・ 各学期で実施しているGPA²制度を活用した履修指導について、継続して実施する。

※ 指標 GPAによる履修指導対象：デザイン学部1.5未満、看護学部2.0未満の学生

- ・ 公平かつ適切な成績評価を実施するため、各科目における成績評価基準や成績評価の状況を検証する。また、併せてルーブリック³の導入に向け、適用試行科目を拡大するとともに、成績評価の妥当性について検討を継続する。

- ・ 学部連携演習の評価基準及び評価方法について、継続して運用し、その運用状況を検証する。また、スタートアップ演習での活用も検討する。

※ 指標 成績評価の検証

(2) 教育の実施体制に関する目標を達成するための措置

- ・ 授業評価アンケートを継続して実施するとともに、卒業時の教育評価アンケートを実施し、その結果を教員へフィードバックする。

※ 指標 授業評価アンケートの実施：学期ごとに1回

卒業時の学生に対するアンケートの実施：年1回

- ・ 教育内容の充実や教員の資質向上を図るため、平成28年度までに開催したFD⁴研修会及びFDマップを基に、平成29年度FD研修会実施計画を策定し、本学の実情に即して成績評価・授業方法等の改善に資するFD研修会を計画的に実施し検証を行う。

※ 指標 FD研修会の開催：10回以上

FD研修会の参加者数：計500人以上

(3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置

- ・ 「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」によるコンソーシアム⁵構築を通じて培われた産業界とのつながりを活用し、適切に連携しながらインターンシップ推進を含めたキャリア支援を継続する。

- ・ デザイン学部においては、新カリキュラムにおけるキャリア教育科目の講義内容を確定する。

※ 指標 デザイン学部 学外団体（中小企業家同友会等）と連携した取組の実施：2回

看護学部 地元医療機関と連携した取組の実施：2回

- ・ 通年のキャリアガイダンスを継続し、各学部の特性・特徴や学生のニーズに合ったキャリア支援の取組を行う。

※ 指標 デザイン学部 キャリアガイダンスの開催：前期・後期各10回

看護学部 キャリア意識を高めるガイダンスの開催：年8回

2 GPA (Grade Point Average)

授業科目ごとの成績評価に対して、GP (グレードポイント) を付し (例えば、5段階 (A、B、C、D、E) の成績評価に対し、4、3、2、1、0 の GP)、この単位当たりの平均を算定し、その一定水準を卒業などの要件とする制度

3 ルーブリック (Rubric)

米国で開発された学修評価の基準の作成方法であり、評価水準である「尺度」と、尺度を満たした場合の「特徴の記述」で構成される。記述により達成水準等が明確化されることにより、他の手段では困難なパフォーマンス等の定性的な評価に向くとされ、評価者・被評価者の認識の共有、複数の評価者による評価の標準化等のメリットがある。

4 FD (ファカルティディベロップメント)

教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称

5 コンソーシアム

2つ以上の個人、企業、団体、地方公共団体等 (あるいはこれらの任意の組合せ) から成る団体で、共同で何らかの目的に沿った活動を行うために結成されるもの。



- ・平成27年度に本格導入したポータルシステム⁶の学生への情報伝達状況について検証する。
- ※ 指標 学生生活アンケートのポータルシステム利用率に関する問いで、「大変利用している」「利用している」と回答する人数の割合（4学年平均値の下限）：50%
- ・留学生を対象にしたチューター⁷制度を継続して実施するとともに、留学生及びチューターとなった学生からの意見聴取等によって得られた課題に基づき、支援内容の充実を図る。
- ※ 指標 希望する留学生にチューターを配置する。

2 研究に関する目標を達成するための措置

(1) 研究水準及び研究成果に関する目標を達成するための措置

- ・ ウェルネス⁸等のデザイン分野と看護分野が連携した研究など、分野横断的な研究を推進する。
- ※ 指標 デザイン分野と看護分野が連携した研究数：6件
- ・ ウェルネスに関わる研究について、更なる深化とネットワークの充実に取り組む。
- ・ 今後の分野横断型連携を視野に入れながら、科学研究費助成事業⁹申請率向上に向けた支援策を検討、実施する。
- ※ 指標 科学研究費助成金の新規応募及び継続申請を合わせた申請率：80%
- ・ 分野横断型連携を進めながら質の高い研究を推進するため、利益相反や研究倫理について意識向上を図る。
- ※ 指標 利益相反に関するFDの開催：1回
研究倫理に関するeラーニング教育（日本学術振興会eL CoRE）の対象者の受講率：100%
- ・ 学術奨励研究費の「国際学会・国際展示会等発表者補助」を継続し、教員の研究成果を評価の高い学術誌や著書、国際学会・国際展示会等に積極的に発表することを促進する。
- ※ 指標 国際学会等における発表：8件以上
- ・ 「学術論文掲載料等補助」の制度について、従来の「採択課題への支援」から、採択の可否を問わず「応募」を補助対象とする「投稿支援」に改正したことを周知徹底し、国際学会誌への発表を促進する。

(2) 研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置

ア 地域連携の強化

- ・ 産学官の出会いの場となる展示会や交流会への出展・発表を支援し、本学のPR活動、産学官連携活動を促進する。
- ※ 指標 共同研究・受託研究の数（研究支援目的の寄附金を含む）：14件
- ・ 「研究・活動事例集」及び「教員研究紹介」を継続して発刊し、地域連携の強化へ向け活用する。
- ・ 産学連携・社会貢献の促進、研究・教育の実践を進めるための外部機関や他大学等との連携の場として、サテライトキャンパスを活用する。
- ※ 指標 地域連携研究センター等による、外部機関や他大学等との連携の場としての活用：150件、900人

6 ポータルシステム

メールや掲示板のみならず、レポート提出、呼出等の伝言、教室変更の連絡など、従来事務の窓口や掲示板で行われた様々なサービスを一元的にパソコン上で取扱う専用のウェブサイト

7 チューター

入学後間もない外国人留学生に教育面、研究面、生活面の様々な助言を行う者

8 ウェルネス

世界保健機関（WHO）が国際的に提示した「健康」の定義をより踏み込んで、そして広範囲な視点から見た健康観を意味する。

9 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金／科学研究費補助金）

人文・社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を格段に発展させることを目的とする文部科学省の「競争的研究資金」であり、ピア・レビューによる審査を経て、独創的・先駆的な研究に対する助成を行うもの。



II 地域貢献、国際化、大学間連携に関する目標を達成するための措置

1 地域貢献に関する目標を達成するための措置

(1) 札幌市等のまちづくりへの貢献に関する目標を達成するための措置

- ・ 学内の地域貢献に関わる情報の集約と発信に積極的に取り組む。その際、本学の地域貢献の事例を分かりやすく学外に発信する。
- ※ 指標 地域産学連携協力依頼：33件
- ・ 産業界とのネットワークを活用し、産学連携等に関わる情報を入手し、学内に発信する。
- ・ 札幌市の地域課題の取組（オリンピック・パラリンピックや札幌国際芸術祭など）に協力する。また、周辺市町村と連携し、地域創生に向けた諸活動に取り組む。
- ・ 看護系大学教員や臨床看護師との研究を推進するとともに、看護コンソーシアム共同研究拠点の整備について検討を継続する。
- ・ 学内のシーズ¹⁰発掘に取り組むとともに、教員の研究成果の公表等、ネットワークづくりに向けた取組を進める。
- ・ 北海道立総合研究機構等と連携して研究に取り組むとともに、セミナーや講演会等を開催する。

※ 指標 まちづくりに貢献した事例数：100件以上

(2) 市民への学習機会の提供に関する目標を達成するための措置

- ・ 公開講座の充実を図り、受講者の満足度をアンケート等で確認する。
- ※ 指標 公開講座の受講者満足度：4.3（5段階評価）
公開講座の実施：28件
- ・ COC事業¹¹として実施する公開講座と連携する。併せて、公開講座の対象者別の実施状況を検討し、地域連携研究センター主催企画の内容を充実させ、大学の知的資源の地域への還元に取り組む。
- ※ 指標 公開講座の受講者数：930人
- ・ COC事業と連携し、デザイン及び看護の専門職向けの公開講座の継続的な実施を行う。また、認定看護管理者教育課程サードレベル¹²等の専門職業人を対象とした支援講座等を実施する。
- ※ 指標 専門職業人支援講座等の開催：225時間以上

2 国際化に関する目標を達成するための措置

- ・ 国際化に関する方針で掲げた4つの戦略である「学生の国際化」、「教職員の国際化」、「提携校との交流の活性化」、「海外とのネットワーク化」を推進する。
- ・ 海外提携校との交流活動を引き続き推進する。
- ※ 指標 海外提携校との交流活動：各1件
- ・ 海外提携校を中心とした学生及び教員の海外への派遣と受入れを実施する。
- ・ 承德医学院（中国）との短期研修プログラム派遣の実施、華梵大学（台湾）・台中科技大学（台湾）とのデザイン合同ワークショップ受入、清華大学（中国）主催の「ワークショップ」への派遣等、提携校との交流を推進する。
- ・ ラップランド大学（フィンランド）との具体的な交流プログラムを実施する。
- ・ PNCA¹³（パシフィックノースカレッジオブアート）との交流の方向性を検討する。
- ※ 指標 教員・学生派遣受入れ：20人以上

10 シーズ

ビジネスの「種」のこと。企業がもつ「技術や材料、アイデア、探究心」など。

11 COC事業（地（知）の拠点整備事業。COC = Center of Community）

自治体と連携し全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める大学等を支援する文部科学省の事業。

本学の「ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成『学び舎』事業」が平成25年度に採択された。

12 認定看護管理者教育課程サードレベル

日本看護協会は、認定看護管理者に必要な教育課程を、ファーストレベル、セカンドレベル及びサードレベルの3課程と定めている。認定看護管理者の水準を均質にするため、認定看護管理者の育成にふさわしい条件を備えた教育機関を認定看護管理者教育機関として認定している。

13 PNCA（パシフィックノースカレッジオブアート）

1909年に創立されたアメリカオレゴン州の私立大学



- ・ 共同研究費募集の際に、海外提携校及び提携の可能性のある機関との取組について積極的に募集する。

※ 指標 海外機関との連携による共同研究費への応募：1件

3 大学間連携に関する目標を達成するための措置

- ・ これまでの「地（知）の拠点整備事業」や「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」において連携した大学や、「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」により連携協定を締結した大学を中心に引き続き連携し、大学間ネットワークの形成を進める。

※ 指標 連携協定締結大学によるシンポジウム等への参加

Ⅲ 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

1 運営体制・手法に関する目標を達成するための措置

(1) 組織運営の改善に関する目標を達成するための措置

- ・ 平成25年度に策定した実行プログラムを踏まえ、第二期経営戦略の計画的な推進に継続して取り組む。
- ・ 経営会議や企画室を機動的に開催・運営し、理事長（学長）のリーダーシップが適切に発揮できるように引き続き取り組む

(2) 教職員の配置・定員の適正化に関する目標を達成するための措置

ア 教職員配置の適正化

- ・ 次期中期計画期間の定員計画について札幌市と必要な協議・確認を行うとともに、計画的な採用及び適正な教員配置を行う。

イ 職員の育成

- ・ 平成29年4月1日付で1名、市派遣職員を減員しプロパー職員¹⁴を補充採用する。
※ 指標 札幌市派遣職員の引揚げ：1名
- ・ 各職員の研修受講歴を考慮しつつ、人材育成基本方針に基づき、研修受講機会を適切に提供する。
- ・ プロパー職員が、直接、札幌市所管部局職員との事務折衝や情報・意見交換を行う機会を増やしていくことなどを通して、市派遣職員の減員に応じたプロパー職員の育成に努める。

(3) 教員評価制度に関する目標を達成するための措置

- ・ 前年度における教員評価制度の見直し事項を踏まえ、適切に評価を実施する。
- ・ 次年度に向けて、必要に応じて制度や運用の見直し・改善を行う。

2 事務の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置

- ・ 効率的な事務執行に向けて、人事業務の増加に伴う派遣スタッフの配置を継続するとともに、適宜、職員配置の見直し等を行う。
- ・ 新たに、週1回のノー残業デイ（繁忙期を除く）の導入を検討するほか、時間外労働を削減するための取組を継続し、ワーク・ライフ・バランスの推進を図る。

※ 指標 超過勤務時間の削減：28年度比減

3 広報の充実にに関する目標を達成するための措置

- ・ 大学ウェブサイト適切に管理・運営するとともに、コンテンツ・マネジメント・システム¹⁵（CMS）を活用するなど積極的な情報発信を行う。また、学内情報の共有促進や学内外への戦略的な情報発信力の強化など、広報戦略に基づき広報活動の充実に引き続き取り組む。

※ 指標 大学ウェブサイトアクセス数：30万アクセス

14 プロパー職員

当法人が採用し、雇用する正職員

15 コンテンツ・マネジメント・システム（CMS）

ウェブコンテンツを構成するテキストや画像などのデジタルコンテンツを統合・体系的に管理し、配信など必要な処理を行うシステムの総称。記事を簡単に作成できる。



IV 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

1 自己収入の増加に関する目標を達成するための措置

- ・ 外部資金の募集情報について、e-Radなどの情報提供サービスを用いて教員に周知する。
※ 指標 教員向け情報提供：3回
- ・ 科学研究費助成金（科研費）の申請支援の強化策として、引き続き、以下の支援策を展開する。
 - ① 科研費採択者の了承を得た申請書の公開
 - ② 原則全教員が参加する教員会議の場等を活用した申請の促進
 - ③ 事務局内の科研費申請支援担当者による申請書の確認
 - ④ 科研費獲得に向けたセミナーの実施
 ※ 指標 申請支援強化策（①～④）の実施：各1件
- ・ 修学支援基金¹⁶（開学10周年記念基金）について、ウェブサイト等により寄附の募集活動を展開する。
- ・ 「KANAえる基金¹⁷」の適切かつ効果的な運用を図るため、実情に応じて実施要領等の見直しを適宜行う。

2 経費の抑制に関する目標を達成するための措置

- ・ 戦略的な経費の確保に向けて、施設管理経費、印刷製本費等の削減を図る。
- ・ 決算見込みを基に、適正な予算の執行管理を行う。

V 自己点検・評価に関する目標を達成するための措置

- ・ PDCAサイクル¹⁸に基づく自己点検・評価を実施し、半期（中期計画大項目第4、第5、第7に係る計画は四半期）ごとの年度計画の進捗管理を行うとともに、学内に適時適切なフィードバックを行う。
※ 指標 年度計画の進捗管理：半期ごと（中期計画大項目第4、第5、第7に係る計画は四半期ごと）
- ・ 札幌市地方独立行政法人評価委員会の評価結果を踏まえ、改善が必要な事項については、適宜大学運営に反映する。
- ・ 認証評価を受審し、評価機関からの質問事項や実地調査等に対して適切に対応する。
※ 指標 大学基準の「適合」認定

VI その他業務運営に関する目標を達成するための措置

1 施設・設備の整備・維持管理に関する目標を達成するための措置

(1) 教育研究環境の充実に関する目標

- ・ 施設整備費補助金による芸術の森キャンパスG・H棟外壁ほか改修工事を適正に実施する。
- ・ 芸術の森キャンパスA・B・図書館棟外壁ほか改修工事実施設計及び芸術の森G・H棟空調設備更新工事実施設計を適正に実施する。
- ・ 平成30年度施設整備費補助金の予算要求を行う。
- ・ 次期中期計画と保全計画の整合性を図る。
- ・ 年間2,000冊程度の図書を整備し、図書館の蔵書の充実を図る。
※ 指標 図書整備：2000冊
- ・ 平成29年度の教育研究備品整備費（10,000千円）の活用について、検討・協議を行い、効果的に整備を進める。

16 修学支援基金

本学に在籍する学生のうち、災害や事件、事故など不測の事態のため修学の継続が一時的に困難な者に対し、修学継続のための支援を行うことを目的とした基金

17 KANA える基金

本学の看護学に係る教育研究活動の充実や人材育成を通じた社会貢献を図ることを目的とした基金。

18 PDCA サイクル

計画（plan）、実施（do）、点検（check）、処置（act）のサイクルを確実かつ継続的に行うことによって、プロセスのレベルアップを図るという考え方



- ・ 平成30年度予算編成に向けて、次期中期計画期間における教育研究備品整備費の取扱いに関し札幌市と協議を進める。
 - ・ 学内利用者に対する文献検索ガイダンス等を実施し、図書館利用に関する情報提供の機会を設ける。
 - ・ 利用者サービス向上のための各種方策の実施及び検証を通して、図書館の利用を活性化する。
- ※ 指標 文献検索ガイダンスの実施：学部生、大学院生、教員各1回以上

(2) キャンパスの活用に関する目標を達成するための措置

- ・ キャンパス活用等に関するプラン（プラン期間：平成29年度～38年度）に基づき整備に取り組む。

2 安全管理等に関する目標を達成するための措置

(1) 安全管理の徹底に関する目標を達成するための措置

- ・ 感染症集団発生対応マニュアルについて、新任教職員に対する周知のほか、市内でインフルエンザやノロウイルス等の集団感染の兆しが出たタイミングで、改めて全教職員へ周知することにより、適切なリスク管理対応を徹底する。
- ・ キャンパスハラスメントの防止に向けた周知、啓発等を行う。
- ・ キャンパスハラスメントに関する相談や申し出があった場合には適切に対応し、防止に向けた改善策を実施する。

(2) 災害時の対応に関する目標を達成するための措置

- ・ 学内や通学途中に大地震が発生した際の行動・対処の留意点等をコンパクトにまとめたポケット版「学生用大地震対応マニュアル（平成28年末制作）」及びそのPDFデータを学生ガイダンス等の機会に配布・配信し、学生個々が日頃から地震への正しい心構えを身につけ、いざというときに落ち着いて行動できるようサポートする。
- ・ 当該マニュアルを活用した事前訓練を検討する。

3 環境に関する目標を達成するための措置

- ・ 施設管理支援システム¹⁹（CAFМ）を活用し、施設でのエネルギー使用状況を把握するとともに、学生や教職員へ節電等の意識啓発を行うなど、省エネルギー対策の取組を継続する。
- ※ 指標 エネルギー消費量：前年度比減

Ⅶ 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

別紙参照

Ⅷ 短期借入金の限度額

1 短期借入金の限度額

2億円

2 想定される理由

運営費交付金の受入れ遅延及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れることが想定される。

Ⅸ 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

なし。

Ⅹ 剰余金の使途

決算において剰余金が発生した場合、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。

19 施設管理支援システム（CAFМ）

電気及び空調設備における建物付帯設備の適正な運用維持管理を支援するシステム



XI 施設及び設備に関する計画

- ・ 経常的修繕 9,215千円
- ・ 芸術の森キャンパスG・H棟外壁等保全工事 78,414千円
- ・ 芸術の森キャンパスA・B・図書館棟外壁等保全工事实施設計 2,335千円
- ・ 芸術の森キャンパスG・H棟冷房設備更新工事实施設計 1,251千円

(注) 金額については見込みであり、上記のほか、業務の実施状況に応じた施設・設備の改善や、老朽度合いに応じた改修等を追加することもあり得る。

XII 人事に関する計画

1 教職員配置の適正化

- ・ 教員定員計画に基づき、計画的な採用及び適正な教員配置を行うとともに検証を行う。(再掲)

2 職員の育成

- ・ 平成28年度末に、市派遣職員を1名減員し、プロパー職員1名を採用する。(再掲)

3 研修の充実

- ・ 各職員の研修受講歴を考慮しつつ、人材育成基本方針に基づき、研修受講機会を適切に提供する。(再掲)
- ・ プロパー職員が、直接、市所管部局職員との事務折衝や情報・意見交換を行う機会を増やしていくことなどを通して、市派遣職員の減員に応じたプロパー職員の育成に努める。(再掲)



別紙 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

1. 予算 (単位：百万円)

区 分	金 額
収入	
運営費交付金	1,462
施設整備費補助金	82
授業料等収入	470
受託研究等収入及び寄附金収入	29
補助金収入	30
その他収入	24
目的積立金取崩	75
計	2,172
支出	
教育研究経費	437
受託研究等経費及び寄附金事業費等	29
人件費	1,258
一般管理費	336
施設整備費	82
補助金事業費	30
計	2,172



2. 収支計画 (単位：百万円)

区 分	金 額
費用の部	
経常費用	2,137
教育研究経費	419
受託研究等費	26
人件費	1,258
一般管理費	307
財務費用	2
減価償却費	125
収益の部	
経常収益	2,062
運営費交付金収益	1,439
授業料等収益	491
受託研究等収益	26
寄付金収益	3
補助金収益	30
資産見返運営費交付金戻入	39
資産見返寄附金戻入	3
資産見返物品受贈額戻入	6
資産見返補助金戻入	1
雑益	24
その他収益	24
純利益（純損失）	△75
目的積立金取崩益	75
総利益（総損失）	0

3. 資金計画 (単位：百万円)

区 分	金 額
資金支出	2,546
業務活動による支出	1,989
投資活動による支出	105
財務活動による支出	77
翌年度への繰越金	374
資金収入	2,546
業務活動による収入	2,015
運営費交付金による収入	1,462
授業料及び入学金検定料による収入	470
受託研究等による収入	26
補助金等による収入	30
寄付金による収入	3
その他収入	24
投資活動による収入	82
施設費による収入	82
前年度よりの繰越金	449



2 平成29年度決算

(単位：百万円)

区 分	予算額	決算額	差額 (決算-予算)	備 考
収入				
運営費交付金	1,462	1,462	—	
施設整備費補助金	82	81	△ 1	
授業料等収入	470	469	△ 1	
受託研究等収入及び寄附金収入	29	10	△19	(注1)
補助金収入	30	20	△ 10	(注2)
その他収入	24	25	1	
目的積立金取崩	75	75	0	
前中期目標期間繰越積立金取崩	—	42	42	(注3)
計	2,172	2,184	12	
支出				
教育研究経費	437	406	△ 31	(注4)
受託研究等経費及び寄附金事業費等	29	10	△ 19	(注1)
人件費	1,258	1,273	15	(注5)
一般管理費	336	313	△ 23	(注4)
施設整備費	82	81	△ 1	
補助金事業費	30	19	△ 11	(注2)
計	2,172	2,102	△ 70	
収入-支出	—	82	82	

○ 予算と決算の差異について

- (注1) 受託研究の契約額が減少しました。
(注2) COC (地 (知) の拠点整備事業) の補助金が減少しました。
(注3) 退職手当の増加分を前中期目標期間繰越積立金から取崩しました。
(注4) 業務の効率的運営 (リース契約の見直し等) により減少しました。
(注5) 退職手当の支給により増加しました。



3 教職員数（平成30年3月31日現在）

1) 学部別教員数（単位：名）

学	長	1
副	学 長	1
デ	ザ イ ン 学 部	35
看	護 学 部	43
教育支援プロジェクトセンター		1
合計		81

2) 職位別教員数（単位：名）

		教授 (特任教授を 含む)	准教授	講師	助教 (特任助教を 含む)	助手	計	非常勤講師
デザイン学部	男	14	7	6	2	0	29	22
	女	1	3	3	0	0	7	9
看護学部	男	0	2	1	1	0	4	43
	女	10	8	12	4	6	40	23
教育支援プロジェクトセンター	男	0	0	0	1	0	1	0
	女	0	0	0	0	0	0	0
合計		25	20	22	8	6	81	97

3) 職員数（単位：名）

	事務系	教務系	技術・技能系	医療系	その他	計
男	24	2	0	0	0	26
女	47	2	0	0	0	49
合計	71	4	0	0	0	75



4 管理職一覧表（平成30年3月31日現在）

役職名	教職員名
学長	蓮見 孝
副学長 兼 看護学部長	樋之津 淳子
デザイン学部長	細谷 多聞
看護学研究科長	松浦 和代
デザイン研究科長	城間 祥之
地域連携研究センター長	上遠野 敏
附属図書館長	宮崎 みち子
事務局長	川上 佳津仁
事務局次長 兼 桑園事務室長	阿部 大
事務局総務課長	石原 荘史
事務局地域連携課長	上田 理子
事務局学生課長	福原 啓祐
事務局桑園担当課長	布廣 成規



5 学生定員及び学生数（平成29年5月1日現在）

1) 学生定員 (単位：名)

学部	入学定員	3年次編入学定員	総定員
デザイン学部	85	10	360
看護学部	80	10	340
合計	165	20	700

2) 学生数 (単位：名)

学部	学年	男女別		計
		男	女	
デザイン学部	1学年	24	64	88
	2学年	29	69	98
	3学年	29	59	88
	4学年	32	74	106
看護学部	1学年	3	81	84
	2学年	8	78	86
	3学年	8	82	90
	4学年	5	90	95
助産学専攻科		0	11	11
合計		138	608	746

研究科	学年	男女別		計
		男	女	
デザイン研究科 博士前期課程	1学年	6	10	16
	2学年	11	10	21
看護学研究科 博士前期課程	1学年	5	7	12
	2学年	3	26	29
合計		25	53	78

研究科	学年	男女別		計
		男	女	
デザイン研究科博士 士後期課程	1学年	1	1	2
	2学年	2	1	3
	3学年	5	2	7
看護学研究科博士 後期課程	1学年	0	1	1
	2学年	0	1	1
	3学年	1	4	5
合計		9	10	19



3) 科目等履修生・聴講生・研究生 (単位：名)

学部	科目等履修生	聴講生	研究生	計
デザイン学部	0	0	0	0
看護学部	0	0	0	0
合計	0	0	0	0

研究科	科目等履修生	聴講生	研究生	計
デザイン研究科	0	0	9	9
看護学研究科	2	0	1	3
合計	2	0	10	12

6 授業料等

(単位：円)

区分	検定料	入学料		授業料
		札幌市内居住者	札幌市外居住者	
学部生	17,000	141,000	282,000	535,800
科目等履修生・聴講生	9,800	14,100	28,200	1単位につき 14,800
研究生	9,800	42,300	84,600	月額29,700

7 奨学金貸与・授業料減免実施状況 (平成30年3月31日現在)

奨学金利用状況 (単位：名)

(単位：名)

学年	日本学生支援機構			その他	計
	第1種	第2種	給付		
学部1年生	49	32	1	3	85
学部2年生	55	42	0	0	97
学部3年生	42	31	0	5	78
学部4年生	52	57	0	3	112
助産学専攻科	2	2	0	0	4
研究科(博士前期)1年生	4	3	0	2	9
研究科(博士前期)2年生	7	2	0	1	10
研究科(博士後期)1年生	0	0	0	0	0
研究科(博士後期)2年生	2	0	0	0	2
研究科(博士後期)3年生	1	0	0	0	1
合計	214	169	1	14	398



授業料減免実施状況

(単位：名)

学年	学期	全額減免者	半額減免者	学長の定める額 免除者	計
学部1年生	前期	0	7	0	7
	後期	0	13	1	14
学部2年生	前期	0	19	4	23
	後期	0	19	0	19
学部3年生	前期	0	22	6	28
	後期	0	23	3	26
学部4年生	前期	0	17	5	22
	後期	0	16	5	21
助産学専攻科	前期	0	1	0	1
	後期	0	0	0	0
研究科 (博士前期) 1年生	前期	0	0	0	0
	後期	0	0	0	0
研究科 (博士前期) 2年生	前期	0	3	1	4
	後期	0	3	0	3
合計	前期	0	69	16	85
	後期	0	74	9	83



8 学生の入選・受賞（デザイン学部・デザイン研究科）

年月	氏名	内容	主催者
平成29年5月	佐野 萌夏	第69回北海道学生陸上競技対校選手権大会 女子棒高跳優勝、女子走高跳第5位入賞	北海道学生陸上競技連盟
平成29年6月	森 瑞紀	第4回東京吉岡株式会社主催ブランドラベルコンテスト優秀賞受賞	東京吉岡株式会社
平成29年8月	原 大介	「日本建築学会設計競技」佳作受賞（全国312作品中11作品）、タジマ奨励賞受賞（優秀な作品への表彰）	日本建築学会
平成29年9月	柴野 未郷	「さっぽろ健康スポーツ財団」で使用する公式書類に掲載されるフッターの制作	さっぽろ健康スポーツ財団
平成29年10月	安田 創	“No Maps NEDO Dream Pitch” with 北海道起業家万博 NEDO TCP賞受賞、東京での最終審査会への参加権獲得	経済産業省北海道経済局国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構
平成29年11月	三上 拓哉 （倉持 歩、 昆野 照美、 姚 李菴、 乾 結、 大久保未央、 松野千代美） （口頭発表）	ADADA Japan 2017研究奨励賞受賞「高齢者のロコモ予防を目的としたトレーニングゲームの開発」	ADADA学会（Asia Digital Art and Design Association）
平成29年11月	吉田 香織 （口頭作品発表）	ADADA Japan 2017研究奨励賞受賞「二次元セルアニメにおける要素を付帯した三次元CG表現」、「2.5次元空間」	ADADA学会（Asia Digital Art and Design Association）
平成29年11月	増井 洋輝 （ポスター発表）	ADADA Japan 2017研究奨励賞受賞「物理挙動を付加した巨大な人型ロボットのキャラクターアクション」	ADADA学会（Asia Digital Art and Design Association）
平成29年11月	森 瑞紀	日本茶輸出促進協議会「日本茶輸出用ロゴマーク」のデザイン採用	日本茶輸出促進協議会
平成29年12月	秋山 倫瑠 松岡 弥生	北海道遺産をPRする学生制作サイネージ番組の放送（道内のセイコーマート全店で放映）	NPO法人北海道遺産協議会
平成29年12月	布施 晴香	視覚科学技術コンソーシアム（Vision Science & Technology: VSAT）の10周年記念イベント開会式ムービー制作	視覚科学技術コンソーシアム
平成30年1月	小熊 凛	「株式会社メルシー」、デイサービス「みんなの家」のロゴ制作	「株式会社メルシー」、デイサービス「みんなの家」、札幌市立大学
平成30年2月 ～3月	田邊 和音	ゲンビ「広島ブランド」デザイン公募展2017入選	広島市現代美術館
平成30年3月	あそびlab『オヘソ』 猪股 祐衣、 江口 怜南、 木村はるな、 佐藤 花映、 園部 唯、 佐竹 希里、 宮浦 志穂、	「OTO TO TABI 2018」キッズスペース制作	札幌市芸術文化財団 サッポロ・シティ・ジャズ実行委員
平成30年3月	塩田茉莉衣	「第12回TOHOシネマズ学生映画祭」最終選考ノミネート	TOHOシネマズ株式会社



9 学生の課外活動

	公認団体
1	バスケットボール部
2	軽音楽部「halo」
3	美術部「noumenon」
4	YOSAKOIソーラン部「～真花～」
5	デザイン部「GNING」
6	服飾制作部「Alice」
7	写真映像部「SEED」
8	演劇部「デンコラ」
9	茶道部「Cha部」
10	野球部「ウップス！」
11	バレーボール部
12	絵本ボランティアサークル「しゃぼん玉」
13	フットサルサークル「SCUギャラクシー」
14	創作活動サークル「創-KIZ-」
15	ダンスサークル「VOLUME」
16	バドミントンサークル
17	カレー研究サークル「SCUカレー研究会」
18	スポーツサークル「すぼさ」
19	アウトドアサークル「PEAK」
20	バドミントンサークル
21	アルティメットサークル「Fly☆Fly」
22	吹奏楽サークル「芸術の森 音楽隊」
23	国際協力／ボランティアを考える同好会「AMIGO」
24	地域交流ボランティア同好会「act」
25	SCUテニス同好会
26	空間作品制作同好会「The Global Workshop」
27	備災同好会「EZO学さいぼー」
28	バレーボール同好会
29	SCUスイーツ同好会「スイ研」
30	総合スポーツ同好会「Force」
31	アナログゲーム同好会「OFF」
32	ものづくり組（もの組）
33	SCUトレーニング同好会「金肉」



10 後援会

後援会(平成19年2月発足)は、学生の福利厚生推進等、学生生活の充実に向けて必要な支援を行い、教育目的の達成に寄与することを目的として活動している。

(平成29年度)

役員	(会 長) 藤島 健志 (副会長) 佐々木 佳造 (理 事) 蛭谷 勝浩、大西 和恵、滝波 武仁、勝俣 信俊、宇佐美 晴己、河波 秀旭 江渡 政恵、橋本 和幸 (監 事) 宮浦 哲也、高橋 節子
主な事業	・課外活動(部活動、大学祭、地域ボランティア活動等)支援 ・就職対策(就職試験対策、就職講話、資格取得支援、国家試験対策)支援 ・後援会報「SSA News」発行
後援会費	40,000円(ただし、編入学生は20,000円、助産学専攻科生は10,000円)

11 教育・研究刊行物一覧

発行年月	名称
平成29年4月	平成29年度履修要項<履修の手引き>デザイン学部・看護学部
平成29年4月	平成29年度学生生活ハンドブック
平成29年4月	2018大学案内
平成29年5月	平成30年度デザイン学部3年次編入学学生募集要項
平成29年5月	平成30年度学生募集要項(デザイン研究科 博士前期課程 推薦選抜)
平成29年5月	平成30年度学生募集要項(デザイン研究科 博士前期課程 一般選抜・特別選抜)
平成29年5月	平成30年度入学者選抜要項(デザイン学部・看護学部)
平成29年6月	平成30年度学生募集要項(デザイン研究科 博士後期課程)
平成29年6月	平成30年度看護学部3年次編入学学生募集要項
平成29年6月	平成30年度学生募集要項(看護学研究科 博士前期課程)
平成29年6月	平成30年度学生募集要項(助産学専攻科)
平成29年6月	札幌市立大学研究・活動事例集2017
平成29年7月	札幌市立大学教員研究紹介2017
平成29年7月	SCU JOURNAL OF DESIGN & NURSING2017 札幌市立大学研究論文集第11巻第1号
平成29年7月	平成30年度学生募集要項(看護学研究科 博士後期課程)
平成29年8月	平成30年度学生募集要項(デザイン学部・看護学部 特別選抜)
平成29年10月	平成30年度学生募集要項(デザイン学部・看護学部 一般選抜)
平成29年10月	平成30年度学生募集要項(デザイン研究科 博士前期課程 第2次募集)
平成29年11月	平成30年度学生募集要項(看護学研究科 博士前期課程 第2次募集)
平成30年1月	札幌市立大学附属図書館ニュースレターのほほん第11号
平成30年3月	デザイン学部・デザイン研究科卒業修了研究展(2018 図録)
平成30年3月	平成29年度札幌市立大学看護学部キャリア支援委員会活動報告書
平成30年3月	札幌市立大学後援会 会報2018(SSA NEWS)



12 施設

1) 校地・校舎、講義室・演習室等の面積

(平成30年3月31日現在)

区分	校地・校舎		講義室・演習室等	
	校地面積 (㎡)	校舎面積 (㎡)	総数	面積 (㎡)
芸術の森キャンパス	167,617	23,087	53	5,689
桑園キャンパス	18,152	12,367	30	3,132
合計	185,769	35,454	83	8,828
サテライトキャンパス	178	178	2	152

2) 芸術の森キャンパス・桑園キャンパス・サテライトキャンパス・COCキャンパス

(施設配置図・校舎配置図)

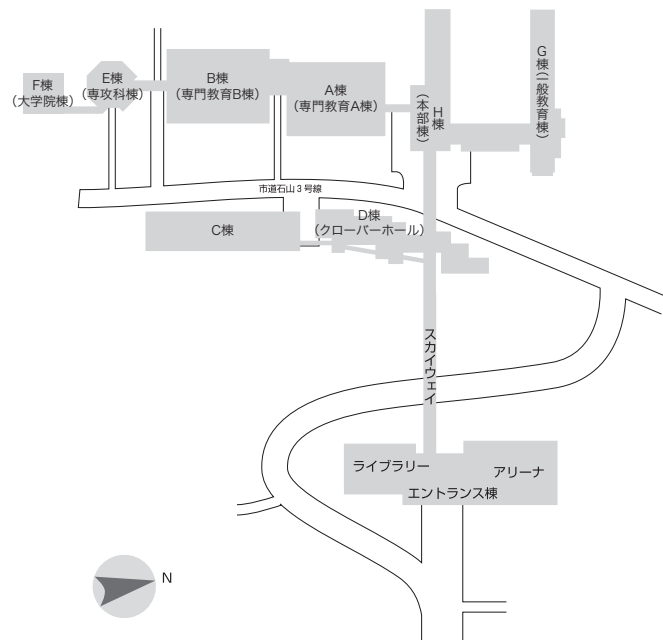
芸術の森キャンパス

〒005-0864

北海道札幌市南区芸術の森1丁目

TEL : 011-592-2300 (代)

FAX : 011-592-2369



●桑園キャンパス

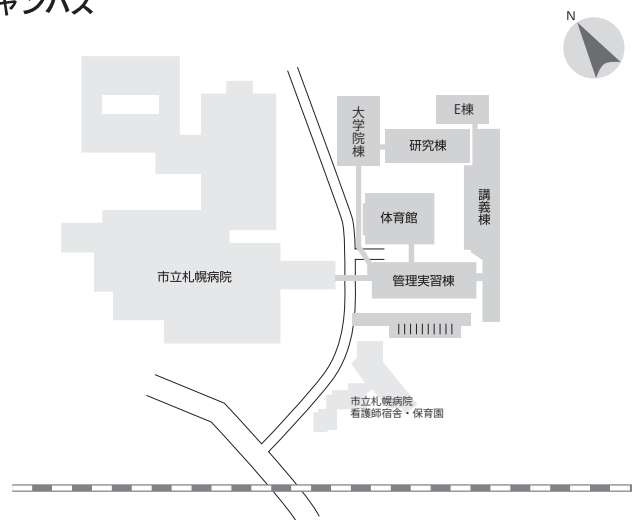
桑園キャンパス

〒060-0001

北海道札幌市中央区北11条西13丁目

TEL : 011-726-2500 (代)

FAX : 011-726-2506





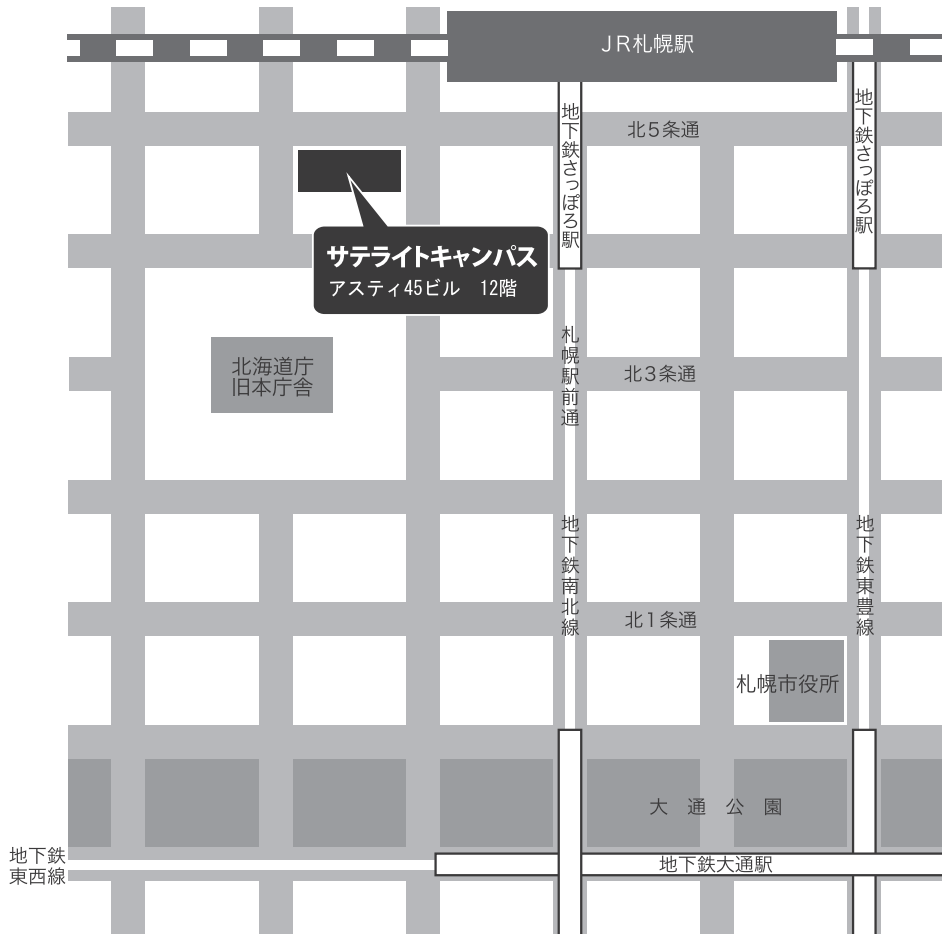
サテライトキャンパス

〒060-0004

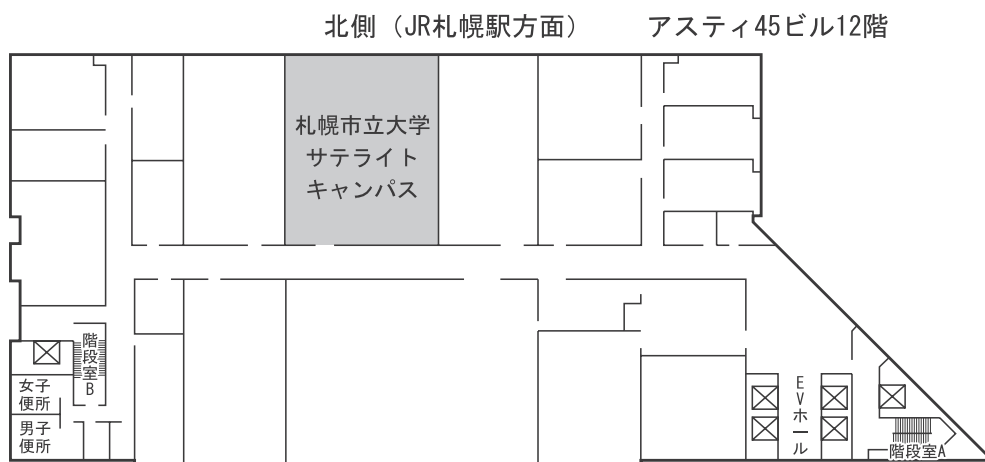
北海道札幌市中央区北4条西5丁目 アスティ45ビル12階

TEL : 011-218-7500 (代)

FAX : 011-218-7507

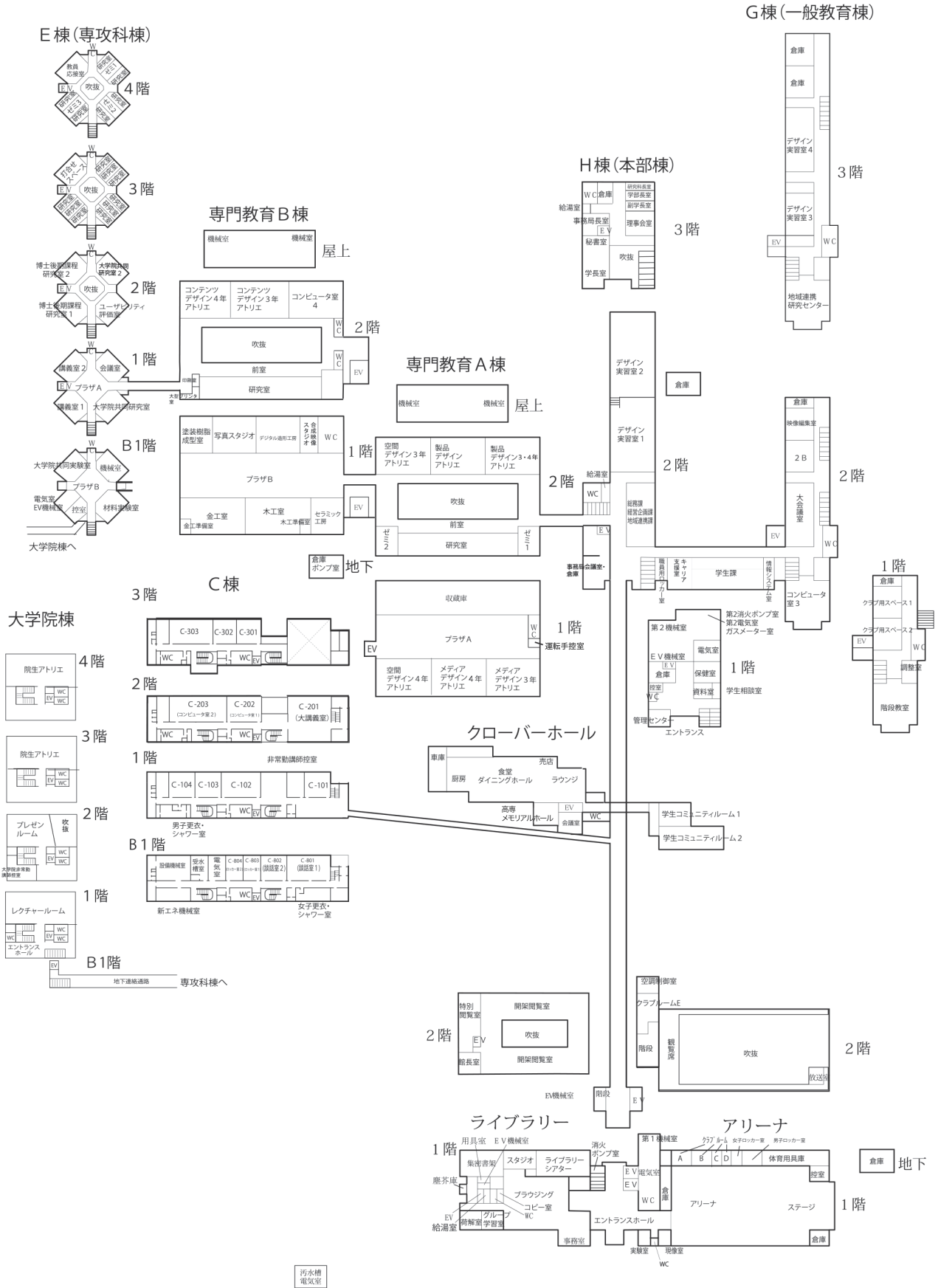


〈施設平面図〉



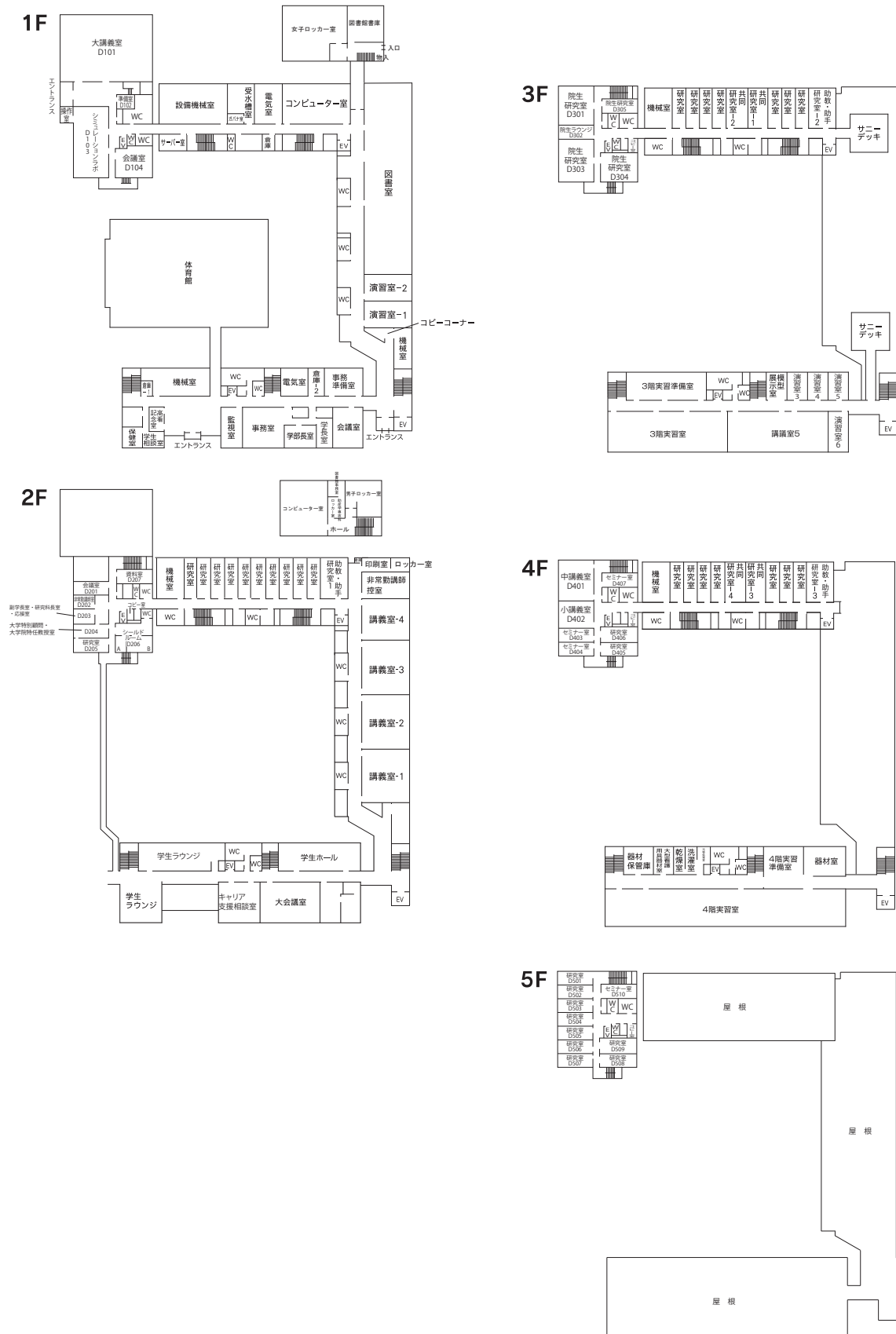


芸術の森キャンパス(校舎配置図)





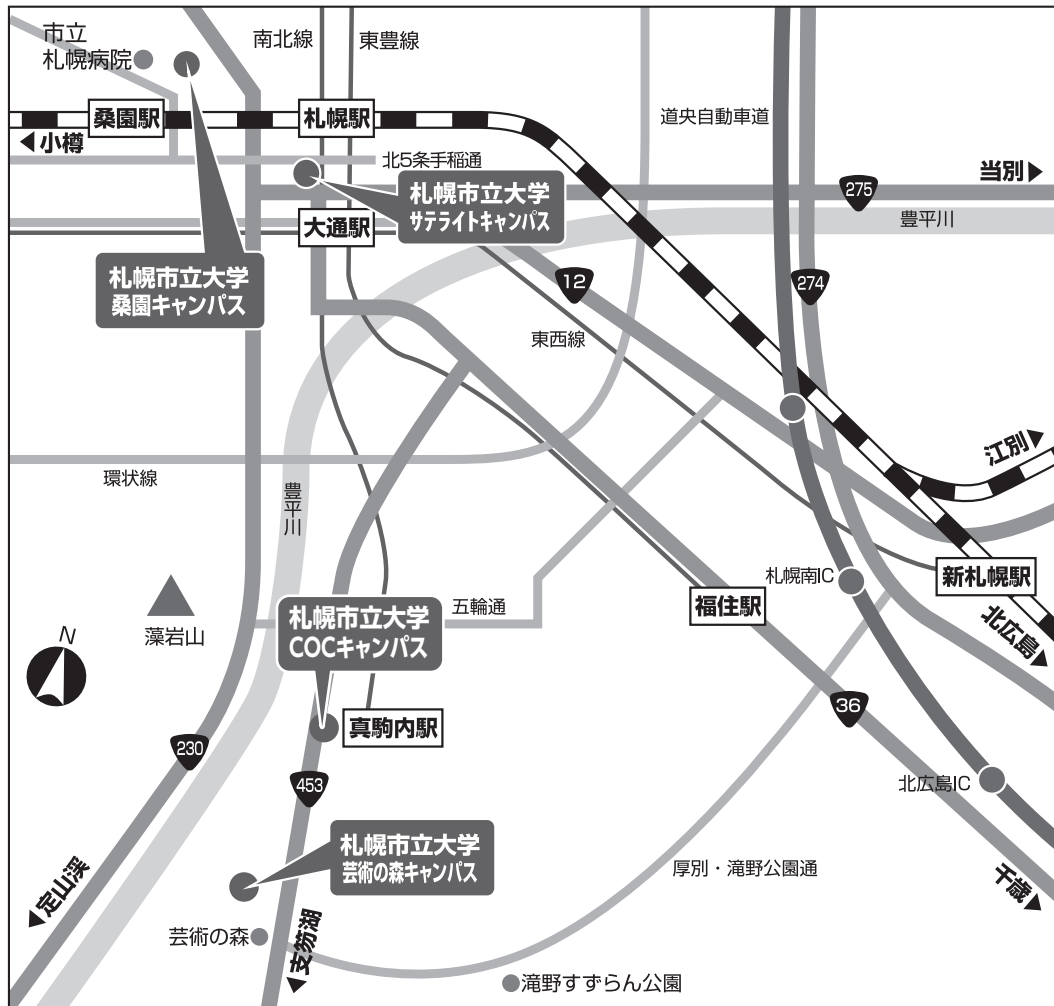
桑園キャンパス〈校舎配置図〉



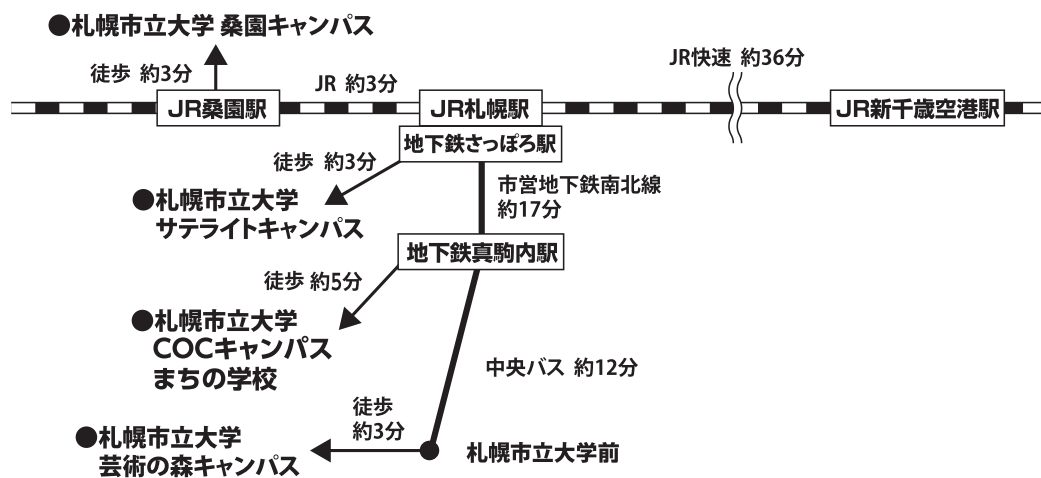


13 大学へのアクセス

1) アクセスマップ



2) 交通案内





14 札幌市立大学 大学歌『みらいの手』

作詞: 後藤優太・首藤翠 (デザイン学部 第4期生)
作曲: 堀 彩菜 (デザイン学部 第3期生)

力強く風が吹き抜ける
新たな希望をたずさえて
さあ飛び出そう
翼広げて
光の指す方へと

ともに笑いともに競った仲間たち
これからは別々の道を往く
強い風に吹かれ
立ち止まりかけても
恐れず歩き続けて

僕らには創りあげる手がある
僕らには支えあえる手がある
同じ空の下には今も
走り続ける仲間がいるだろう

僕らには創りあげる手がある
僕らには支えあえる手がある
あの地平の彼方にはきっと
君の染める世界がある

僕らには導く能力(ちから)がある
僕らには差し伸べる精神(こころ)がある
その壁の向こうにはきっと
君を待つ世界がある

『みらいの手』

公立大学法人 札幌市立大学 大学歌

作詞: 後藤 優太・首藤 翠
作曲: 堀 彩菜

The musical score is presented in two columns. The left column contains the vocal line and piano accompaniment for the first two verses. The right column contains the piano accompaniment for the first two verses and the vocal line for the third verse. The score includes various musical notations such as treble and bass clefs, time signatures, and dynamic markings like 'mf' and 'f'. Section markers A, B, and C are placed above the corresponding parts of the music. The lyrics are written in hiragana and katakana below the vocal lines.